事例No.	2608
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	下内野自治会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・移住定住

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

下内野自治会

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

団体表彰

北海道中標津農業高等学校　北海道中標津町

概　要

農業高校生が指導者となり地域の子供たちに食の大切さを伝えることを目的とした地域一体型プロジェクトとして、平成１８年に計根別食育学校を開校し、毎年生徒主体でジャガイモ栽培やキュウリ栽培、家畜について、食肉加工などの学年進行に合わせた教材で地域の幼稚園や学校を対象に教室を開催している。開校当初は幼稚園と小学校だけを対象にしていたが、近年は中学校や児童館、農協などにも活動の幅を広げ、農業高校を中心とした地域交流の輪を形成している。



評価された点

・卒業後地元を離れることの多い高校生が地域資源を学び、地域の人々と交流することは、地域づくりの重要なポイント。子供との交流によって、さらに効果が高まると考える。
・高校生が主体となり、地域の子どもたちの「食育教育」を行う取組は、農水産、畜産、調理科のある全国の高校のモデルケース。食に真摯に取組む高校生の活動に地域の生産者の意識も高まり、地域連携が継続している。
・幼・小・中・高校が連携し、「食育学校」として地域の子供達の健全な食生活の実現に向け、果たす役割は大きい。
・食育が日本の大きな価値につながる。農家のなり手が不足している中で、関心が高まることは素晴らしい。
・今後の地方創生の鍵は高校、中学校にある。高校が中心となり、地域を巻き込んだ好事例である。
・先輩から教えてもらう知識は、勉強の範疇を超えて、インパクトのある浸透力を持ち、後輩に伝達されると考えられる。日本の「食」を支える次世代養成としても大きな期待。



下内野自治会　岩手県一関市

概　要

典型的な中山間地帯であり、過疎化と高齢化の渦中にありながらも住民が一丸となり、地域づくりの方向性を定めた「下内野4WD計画」（※4＝老若男女全員で力強く、W＝水、D＝夢）を策定し、活力あふれる地域づくりに取り組んでいる。「かじかの里」をキャッチフレーズに水質保全活動と意識啓発活動に取り組み、北上川の支流・砂鉄川に清流の象徴であるかじかの里の再生を目指している。また、自治会員が未利用の農地を提供し、地域づくりの仲間として移住者を受け入れ、活性化が図られている。





評価された点

・流域の上流・下流の交流が活発に行われている好事例。
・地域が身銭をきる発想が重要で、「ない、ない」と嘆かずに、そこにある資源を最大限活用していることが評価できる。
・地域が一丸となった取り組みが成果を上げている。積極的に移住者を受け入れており、パートナー的な役割を担い、後継者へとつながってきている。